幸福について学ぶ

市民の幸福を考えるシンポジウム
～GNHシンポジウムin天草～

5月26日、天草市民センターホールで「市民の幸福を考えるシンポジウム～GNHシンポジウムin天草～」が開かれ、約500人が参加し幸福について学びました。

基調講演

同シンポジウムでは、まず、ブータン王国内務省文化庁地方行政局の上級企画官、カルマ・ゲレ氏が、「ブータンのGNHの現状と取組み」と題して講演。GNHが取り組まれるようになった背景や、国民の幸福量を政策に反映するためのしくみなどについて説明があり、同国の取り組みについて「経済が重要ではないということではない。経済は手段であって、目的は幸福そのものである」と話されました。

▲カルマ・ゲレ氏

▲蒲島郁夫・熊本県知事

続いて、蒲島郁夫・熊本県知事が「県民総幸福量の最大化をめざして」と題して講演。現在、県で研究が進められている県民幸福量を測る総合指標、「県民総幸福量（AKH＝Aggregate Kumamoto Happiness（アグリゲイト クマモト ハピネス））」の取り組みについて、「幸福の形は県内の各地域によって異なることがわかった。天草市においても市民の幸福を意識した取り組みに向けて研究が行われているので、連携した施策展開につながることを期待している」と話されました。

▲シンポジウムのようす

パネルディスカッション

その後、「幸福量を意識した地域づくり」をテーマに、4人のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。

コーディネーターを務められた坂本正氏は冒頭、「各自治体が競って幸福の話をしている中で、これほど大規模に、かなり具体的に踏み込んだ幸福量の話が聞けるのは、日本で初めてではないか」とあいさつ。ディスカッションでは、パネリストからブータン王国や熊本県の取り組みなどを通して、パネリスト自身が考える幸福について意見が出されたほか、物質的な豊かさもやはり重要であることや、幸福に着目した行政の向かうべき方向、市民とのかかわり方など幅広い議論が交わされ、来場者は熱心に聞き入っていました。

◆コーディネーター◆

熊本学園大学教授
くまもと幸福量研究会リーダー
坂本正 氏

◆パネリスト◆

東京藝術（げいじゅつ）大学教授
ブータン王国観光大使
日比野克彦 氏

夢を持つ、遠くのものを思い描くことが幸せにつながる。

桐蔭（とういん）横浜大学大学院教授
ブータン王国首相顧問
ペマ・ギャルポ 氏

GNHは決して物質的要素を否定していない。それがなかったら幸せにならない。

カルマ・ゲレ 氏

大きな社会をひとつにして、幸せというものにたどりつく。

安田市長

幸せな島になっていくように、市民の皆さん方とともに。

私はこう思う シンポジウムの参加者から寄せられた声

同シンポジウムの参加者を対象に、アンケートを実施しました。アンケートに寄せられた参加者の皆さんの声をご紹介します。

今現在、市民のさまざまな活動が行われているが、市民のアイデアや行動力を活用するシステムが未整備。そこを改善して協働しやすい体制づくりをぜひ行ってほしい。（30代女性）

経済面ばかりでなく、心のあり方が大切であり、天草のよさを住民一人ひとりがしっかり持つことだと思った。（50代男性）

雇用の場の創出。両親、子ども、兄弟と天草内で暮らすことができれば最高。（50代男性）

若者が住みやすいまちづくりが必要であり、そのために育児、教育環境をもっと整えるべき。（60代男性）

治安の良い、恵まれた自然環境を島外にも島民にもアピールすべき。（70代女性）

経済的に豊かであれば国民も幸福と感じると思っていたが、必ずしも経済的な豊かさと幸福が通じているとは限らないと知った。（10代女性）

市民と行政関係者が、世代、性別を問わずにディスカッションをする場をたくさん設けて、政策に反映し、定期的に報告、精査する機会を持つ。（20代女性）